

スポーツ かわさき

No. 24



川崎市体育協会

体育協会長就任あいさつ

川崎市体育協会会長
川崎市市長 高橋 清

川崎市体育協会の会長に就任いたしました川崎市市長の高橋でございます。

私は、助役当時から、体育協会の総会や懇親会等に伊藤前市長に代わりまして出席しておりましたので、本協会には、たいへん親しみを感じております。これからは、会長という立場で皆さま方とともに本市の体育振興をすすめてまいりたいと思っております。

また、115万川崎市民の皆さんが、生涯を通じて健康でいきいきと暮らせる、健康都市づくりが私の願いであり、目標でございます。

国の段階では、文部省の保健体育審議会が17年ぶりに「21世紀に向けたスポーツの振興の基本的方向」として全般的なスポーツ政策について答申をいたしました。その答申のなかでスポーツ施設の整備充実、生涯スポーツの充実、競技スポーツの振興等が打ち出されております。こうしたなかで本協会の任務はますます重要となってくると思えます。

皆さま方も、すでにご承知のことですが、平成10年には神奈川県で国民体育大会が開催され、

本市でも数多くの大会が実施されることと思えます。その国体に向けて総合体育館の新設、現体育館の改築等、スポーツ施設の整備・充実が急務となっております。私は市長として、体育協会の会長として、皆さまと一緒に実現に向けて努力してまいりたいと思っております。

終わりに、本市体育振興のますますの発展のため、協会の皆さま方のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます、就任のご挨拶といたします。



経 歴	1925	宮城県生まれ
	1944	宮城師範学校卒業
	1955	川崎市立古市場小学校教諭
	1967	川崎市立古市場小学校教頭
	1969	川崎市教育委員会学校教育部指導課長
	1972	同 教職員部長
	1974	川崎市職員局長
	1983	川崎市助役
	1989	川崎市市長

趣 味 読書・旅行

**華やかに、厳粛に
神奈川県体育協会
創立50周年記念式典行わる
平成元年 11月10日
69団体630名表彰本市体協推薦者は8名**

神奈川県体育協会が創立されたのは、去る昭和14年10月16日。

それから50年という歳月を経て、いま、神奈川県民総スポーツの時代を迎える大きな歴史の流れの節目に当たり、これからの体協のあり方を改めて問い直そうという意味から、県体協は昨年11月10日、創立50周年記念式典を行いました。

神奈川県警察本部カラーガード隊による華々しいドリル演奏に始まった式典は、会長長洲一二県知事の挨拶の後、永年にわたり本県の体育振興に尽力された69団体630人の方々への功労賞・感謝状の贈呈が行われ、最後に神奈川フィルハーモニー管弦楽団がアイネクライネ・ナハトムジックを演奏する中、厳かな雰囲気うちに終了しました。

続いて会場はロイヤルホテルヨコハマに移されて華やかな記念祝賀会となり、参加者は夜の更けるのも忘れて、思い出話や未来への抱負などを語り合い、楽しいひとときを過ごしなが、更に新たな活動についての決意を固めていました。

本市体育協会からの推薦で表彰を受けられた方は次の8名です。(敬称略)

神山 力・小林完一・左澤重明・作間 牧夫
長谷川武雄・谷口 恭男・日野原 守・保坂 博

このほか各種目団体からの推薦で受賞された方々も大勢おられますが、紙面の都合で省略させていただきます。



“ちびっこ”のハンドボール練習会にぎわう

西中原中学校にて

昨年11月23日、市立西中原中学校グラウンドで、“ちびっこハンドボール”の練習会が行われました。

当日は、新城・中原地区に居住する小学生60余名の男女が集まり、チームを組んで練習をしました。普段の遊び着のまま、中にはスカートをはいた女の子もいたりして、気軽な練習風景でしたが、指導する人や付き添いで来られたお父さん・お母さんたちはけっこう興奮し、はげましの声がとんだりしました。

小さいうちから、ルールにしたがってスポーツを楽しむ、そしてその結果心身が鍛えられることを目標に、ハンドボール協会は“ち

びっこハンドボール”の育成に努めているところです。



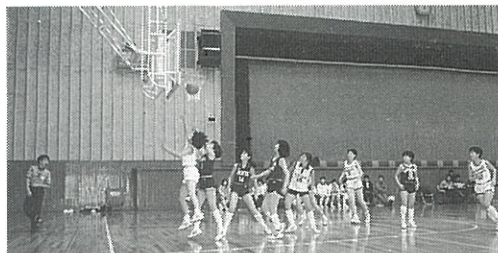
東芝女子バスケット部 市文化賞受賞！

昭和63年度日本バスケットボールリーグ優勝と併せて、全日本バスケットボール選手権大会優勝の二冠王を達成した東芝女子バスケットボール部は、さきに昭和63年度の市優秀選手賞（魚津賞）を受賞しましたが、それに引続き、このたび市文化賞受賞の榮譽に輝き、平成元年11月3日市立産業文化会館で顕彰されました。

これを機に、東芝女子バスケットボール部のますますの活躍を期待するとともに、川崎市のスポーツ文化の向上と発展により一層のご尽力を願いたいところであります。

☆☆ 東芝女子バスケットボール部 最近の成績☆☆

	全日本選手権	日本リーグ
昭和59年度	第3位	第3位
昭和60年度	準優勝	準優勝
昭和61年度	準優勝	準優勝
昭和62年度	準優勝	第3位
昭和63年度	優勝	優勝



県総体連覇ならず 総合4位に終る

平成元年度神奈川県総合体育大会は、昨年3月の冬季競技に始まり、8月の夏季競技、9月の秋季競技に至るまで、7カ月にわたり、県下26郡市対抗15種目の競技で展開された。

本市は、昨年度の総合優勝に続いて連覇を狙い善戦したが、今回は力及ばず残念ながら4位に終った。平成2年度の活躍に期待したい。

《冬季競技》

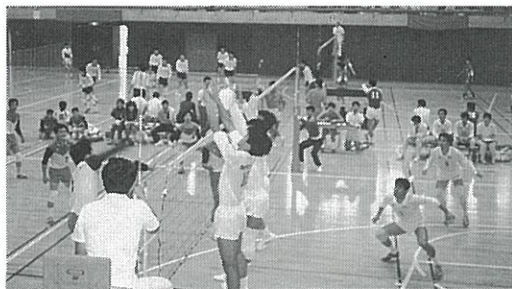
スキー 5位 22.0点

《夏季競技》

ソフトボール 1回戦敗退 5.5点

軟式庭球 2回戦敗退 14.5点

水泳 優勝 26.0点



《秋季競技》

陸上競技 10位 17.0点

バレーボール 3位 24.0点

軟式野球 1回戦敗退 5.5点

サッカー 2回戦敗退 14.5点

卓球 2回戦敗退 14.5点

バスケット 優勝 25.5点

バドミントン 5位 20.5点

柔道 5位 20.5点

剣道 2位 25.0点

弓道 1回戦敗退 9.0点

クレ射撃 2位 25.0点

得点合計 269点

君よ今、北の大地の風となれ

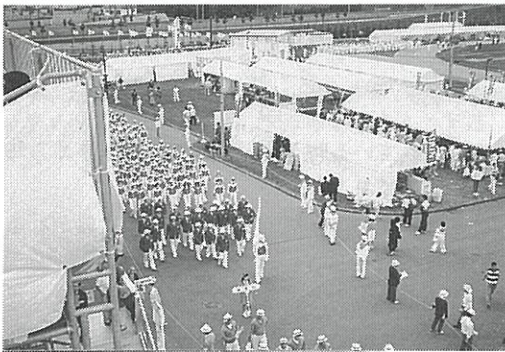
第44回国民体育大会視察記

川崎市体育協会国体視察団

第44回国民体育大会(はまなす国体)秋季大会が去る平成元年9月17日から22日までの6日間、北海道札幌市を中心として33種目にわたり展開されました。

来る平成10年に第53回国体“かながわ98国体”を控えている川崎市体育協会としては、施設視察を中心とした視察団を派遣することを決め、保坂副会長ほか5名の役員が現地視察に出かけてきました。以下はその報告です。

17日早朝、羽田空港に集合。7時発全日空51便に搭乗し8時25分千歳空港着。レンタカーを利用して札幌市厚別公園競技場へと向かった。11時に入場メ切ということで急いだのだが、駐車場が会場とは程遠い距離にあり、車をおりてからの徒歩が大変であった。数も広さも十分であるのだが、これはやむをえない事なのであろうか。



スタンドはすべて指定席で、北側最上段の仮設スタンドでは風が強く、9月というのに寒さを感じ、大会スローガンの北の大地の風が身にしみるようであった。

11時40分、集団演技が始まり、地方色豊かな唄と踊りが約1時間にわたって展開された。

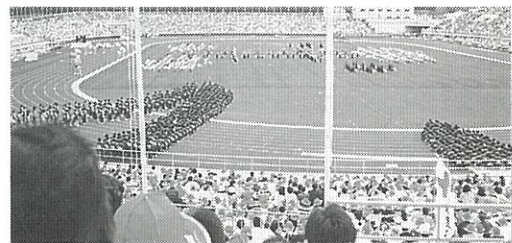
各県選手団の入場続き、青森から沖縄へ、そして最後に地元北海道の入場。各県独自のユニフォームと演出の行進にしばし酔わされた。

われわれのスタンドの後ろ側は、たまたま選手集合所のサブトラックであったため、集結した選手団が隊列を整えて入場する過程がよく視察できたのは幸いであった。

宿舎の札幌駅前京王プラザホテルは超一流ホテルで、開会式にご臨席の天皇・皇后両陛下の宿泊所ともなっており、われわれの到着とほぼ同時に両陛下も到着され、間近に両陛下のお姿を拝することができ、感慨ひとしおであった。

18日、レンタカーにて砂川市総合体育館(剣道)保坂氏、美唄市総合体育館(卓球)古谷氏、赤平市総合体育館(柔道)渡辺氏が廻り、各会場の視察と本県選手団の激励を行い、逆コースでホテルまで戻ったが、地図の上では簡単に見えても、さすがに北海道の広さを痛切に感じた距離であった。

各会場近辺の駐車場の一角にはすべて大テントが用意され、地元家庭婦人の方の奉仕で、北海道特産食品の無料接待が行われており、石狩鍋・とうもろこし・馬鈴薯・チーズなど、選手や役員は自由に取ることができるようになっていた。これは他県では出来ないことではないかと思った。



19日は全員同一行動で、札幌市内の各会場を廻ったが、北海道大学第2体育館(ハンドボール)真駒内公園屋内競技場(バスケットボール)厚別公園競技場(陸上競技)等が行われていた。

その日、18時10分羽田着で無事帰川したが、何しろ北海道は広大で、会場敷地も多数あり、うらやましい限りであった。この点では、本県の参考にするには無理なことであるという感否めなかった。(吉田敏郎 記)

さあ大へん！でも大丈夫！ スポーツ事故の応急手当て法

凍傷と凍死について



連載(第12回)

日赤神奈川県支部委嘱救急法講師
川崎体育救護クラブ 副会長

左澤 重明



◎ 凍創(しもやけ)と凍傷について

再び厳寒の季節がやってきた。小・中学生の中には手足の指先がしもやけになり、腫れや、ひどい場合にはそれが崩れてグシャグシャになり、ひどい痒(かゆ)さや痛みに泣く子も出てくるであろう。

手や足は体の中で最も心臓から遠いし、血流も一定していないので寒気にさらされるといち早く皮膚血管の収縮が起こり、凍創になりやすい。

つまり、凍創とは、皮膚血管の収縮により、循環血液の量が減少して起こる障害のことである。毛細血管は寒冷によってダメージを受けると、血管壁に変化が起こり、血漿が血管外に漏れて出る。このために指先が腫れてくる。また、血漿の漏出によって血液が凝縮する結果、末梢に血栓が生じるようになってくると、皮膚が破れいわゆる「くずれる」という損壊を招くようになるのである。

冷たさや寒さを感じる時期になったら、常に良く手足の指先を摩擦して、血流を促進しておけば循環不良も生ぜず、予防できるものなのである。

これに対して、凍傷というのは、急激な生体の冷却によって凍創の過程を瞬時に通り越して、激しい循環障害によって組織が凍結を始める現象である。組織の冷却が継続すると、凍結の部位は拡大し、また深部の組織まで侵されるようになる。このような状況になると、細胞と細胞の間には氷の結晶が出来るという。その結晶は細胞から水分を奪いながら大きくなっていく結果、組織は氷の結晶の圧迫により物理的な損傷を受けるばかりでなく、脱水による傷害も受けるようになるのである。

このような過激な冷却状態が全身に及んだ場合、凍死という痛ましい状況となるのである。

◎ 風と湿気が恐ろしい

凍傷は、体が寒気にさらされれば常に見舞われるおそれを有している。衣服・防寒着の不備によ

る体温の喪失や、飢餓による熱産生の低下、疲労などが原因となるほか、アルコールの多飲で酩酊状態の時などは、皮膚血管が拡大して体温放熱が激しくなっている状態で、酔って不覚に道路で寝込んだりすれば、初冬や春先でも凍死してしまう例もあるほどである。凍傷や凍死を招く外的要件の大きなものとして、風の影響と衣服の湿潤は決定的である。風が体温の喪失に及ぼす効果は非常なものであり、乳児が扇風機の風により凍死したという例すらもある。

北海道大学の三浦博士によれば、風が体に与えるダメージの度合を、寒威または凍度として次のような数式に表わしている。

$$\text{寒威(凍度)} = \text{外気温} + \frac{\text{外気温} - 36}{10} \times \text{風速(m/秒)}$$

つまりこれは、例えば外気温が5度の時、風速5メートルの風にさらされれば、

$$\text{寒威(凍度)} = 5 + \frac{5 - 36}{10} \times 5 = -10.5 \text{度の冷気}$$

にさらされている時と同じ身体的影響を与えられるというのである。

血管内の血球は、摂氏0度の環境下に置かれると凝縮を始めるという。(寒性自家血球凝集反応)このため血栓が生じ、急激な循環障害が全身に及んで、筋肉・脳が侵されていく。衣服が十分であり、食料摂取が十分で熱産生も盛んであり、疲労や外傷等もなければ、すぐさま凍傷や凍死という状況に陥ることはないが、例えば、悪天候下でコースを誤り、動き廻ることによって体の疲労困憊を招いたりするようなことがあれば、凍死への道を迎えるというケースになって行くものである。

凍傷・凍死を招くもう一つの大きな原因として挙げられるものは、濡れた着衣である。

手袋や靴下や、あるいは発汗によって濡れた着衣は、体からの放熱が激しく、著しく体温を奪っ

て行くばかりでなく、外冷気に対しての断熱効果性を失うため、体の冷却はどんどん進行する。寒さによる震えが始まると、体内の熱産生量は増加するが、反面、震えは筋肉の不随意で急速な収縮であるため、筋肉の代謝活動によって熱の産生は増加するが非常に多くのエネルギーを消費するようになる。このため体が疲れやすくなっていく。疲労は、寒さに対する抵抗性を減少して、次には更なる体温の低下をもたらすものである。このような悪循環は急速に行われるということを忘れてはならない。スキーや登山を行う者は、風と着衣の濡れの相乗の恐ろしさを肝に銘じておくべきである。もしも天候が急変して悪絶になった場合、（冬に限らず秋の寒前線の通過に遭遇することが非常に恐ろしい）身体運動が激しく、防寒・防風着が不十分な場合には、歩行の緩慢さや、周囲への無関心、過度の疲労・記憶力の減退・震えなどの初期症状が現われてから虚脱状態に至るまでは約1時間、虚脱状態から死亡に至るまでは約2時間と考えておいてよい。

したがって天候が悪化して来たら直ちに退却するか、退却不能ならば、しかるべき所でビバーク（不時露営）に入るべきである。手が使えなくなったり、身体の動きが緩慢になってきた場合には極度の生命危機にさらされ始めているものと考え、ツェルトの中で、乾いた衣類を着られるだけ着て、防水に配慮しながらじっとしているほうが良い。暖かな場所を求めて悪天候の中をさ迷うことは、いたずらに疲労を増大させ、凍死への道を歩むものととなる。

◎凍傷の応急手当法

凍傷の初期症状は、寒冷にさらされた部位の非常な冷感、そして痛みの感覚と皮膚の蒼白である。更に進行すると、皮膚は鈍い灰色を示し、しばらくすると黒色となり、すべての感覚が失われて行く。

このような状態になった時、凍傷の治療法として患部を雪で勢よく摩擦すると良いというものがある。血液循環を良くするためと称するこの方法は百害あって一利無しである。このようなことをすれば、かえって皮膚温度を低下させ悪化させることになる。また、患部を徐々に温めるという方法がかつてとられていたが、これも勧められない。

凍傷の手当て法として一番良いことは、患部を急速に温めることである。これは38℃～42℃の湯を使うが、湯を入れる容器はできるだけ大きいものが良い。大きな容器のほうが湯温の調節が正確に行えるし、凍結した組織への加温も速く行える。大きな容器がない場合には、段ボール箱や木箱にビニールシートを袋状に敷いて湯槽を作るとよい。

患部を湯につけて時間が経過すると、次第に湯温が下ってくるが、この時、湯温を上げるため、容器を直接火にかけて上げようとしてはならない。患部をつけた容器の温度は、必ず「差し湯」によって上げるようにする。差し湯をする間は患部を湯から出しておく。よくかき混ぜて、温度を確かめてから再びつける。42℃を超える高温湯は却って患部を悪化させることとなるので、湯温の調節は難しい。患部は容器の底やヘリにつけないよう、湯槽の中心に浮かせるようにする。

患部が温まって融解が始まってくると、患者は非常な痛みを訴える。しかし加温を中断してはならない。ただし、4～5分加温しては1～2分休ませてから再びまたつけるという方法は、痛みの軽減になるので、この方法で30分位は続けるとよい。加温中はもとより、加温手当てが終わってからも、全身の保温を忘れてはならない。患部は挙上し、傷つけたり刺激しないよう、清潔なガーゼを軽くあて、木枠で毛布を支えるようにしておく。水泡が現れても、決してこれを破らないように注意しなければならない。

◎この手当て法が行える条件

この手当て法は、山中で不用意に行ってはならない。次の条件を満たす場所に患者を移してから行わなければならない。すなわち、手当てする場所が、手当中、手当後とも患者の全身の保温に適していること。患者がその後移動する際に、凍傷を負った手・足を使わずに移動できる場所であることである。一度融解した組織は非常にもろく、傷つき易いので、当分はそこに停滞しても、十分に保温ができる環境のもとに到達してから行うべきである。その後は慎重に医師の所へ運搬する。

運搬にあたっては先に述べたように、患部が物に当たったり、また患部を使わせたりしないよう、十分に注意を働かさなければならない。

**第13回 つつじ、つばき杯争奪
川崎市家庭婦人バレーボール大会**
つつじ杯、古川町・京町1・2丁目
つばき杯、観音ウイング、
さつきチーム **が**
それぞれ優勝

昨年9月15・23日の両日、川崎市体育館・幸スポーツセンター・市立川崎高校・商業高校体育館の4会場で、第13回家庭婦人バレーボール大会が開催されました。

各会場とも熱心なお母さん方の熱気であふれ、素晴らしい試合が展開されましたが、最終的には次の各チームが栄誉に輝きました。

◎つつじ杯Aブロック(22チーム)

優勝 古川町 3位 { 白山クラブ
準優勝 南河原 新町小クラブ

◎つつじ杯Bブロック(22チーム)

優勝 京町1・2丁目 3位 { 百合丘トパーズ
準優勝 平成クラブ ゆうかり

◎つばき杯Aブロック(22チーム)

優勝 観音ウイング 3位 { 中原
準優勝 宮崎小 向丘コスモ

◎つばき杯Bブロック(21チーム)

優勝 さつきチーム 3位 { 愛球クラブ
準優勝 新町小PTA 下野毛チーム

尚この大会は、一昨年は9月15日に一日のみの日程で行いましたが、チーム数が多いため終了が午後7時過ぎになってしまい、その反省から今回は2日間の日程になったものです。これで余裕のあるよい大会になりました。



**第4回
川崎市家庭婦人テニス大会**

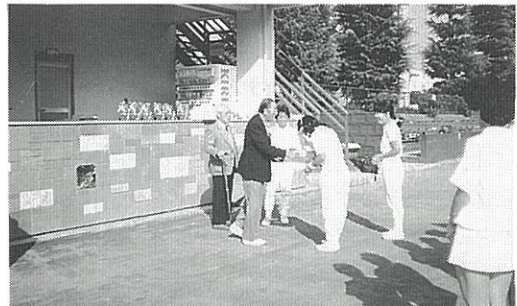
第4回家庭婦人テニス大会が10月24日から26日まで等々力緑地庭球場で行われました。

232組が参加し、4ブロック(A~D組)にわかれ熱戦を繰り広げました。

【各組別の成績】

A組 優勝 浜田 和子・岡 登志
2位 坂井 節子・青木 桂子
3位 花木内昭子・野村美佐子
3位 楠原千沙子・山崎 節子

B組 優勝 草野千江子・坂本 真弓
2位 竹内 明子・八反田玲子
3位 平山 礼子・徳植 敦子
3位 谷本 雅子・大坪美智子
C組 優勝 坂口みつ子・山田 秀子
2位 嶋田けい子・関口はつえ
3位 鈴木 純子・河合 容子
3位 伊沢 孝子・北村 明子
D組 優勝 富岡富美枝・川辺 郁子
2位 藤本 悦子・上田まさ子
3位 山田みどり・小原 悦子
3位 田辺 勝子・安倍 昭子



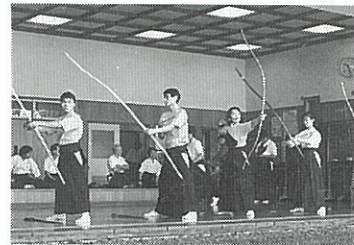
爽やかな汗に快よい秋風！ 秋季市民大会盛況…市内各地はスポーツ一色

去る10月10日の体育の日を中心に、市内各地は秋季市民体育大会競技で賑わいました。
体操・バドミントンをはじめとしてテニス・バ

レーボール等、市内各会場では爽やかな汗に、健康の喜びをうたう歓声が一杯に響きわたりました。
以下はその主な試合の結果です。

◎弓道 10月22日 富士見弓道場

☆色の部	団体	個人	女子	高校男子	高校女子
1位	川崎弓道会A	高中(NKK)	柳下(川崎弓道会)	佐々木(県川工)	温井(新城)
2位	川崎弓道会B	吉田(NKK)	小島(川崎弓道会)	吉良(北高)	伊東(北高)
3位	NKK	入山(川崎弓道会)	吉沢(日電玉川)	白石(県川工)	鈴木(北高)
☆霞的の部	団体	個人	女子		
1位	東芝小向	石渡(日鉄建材)	藤村(NKK)		
2位	NKK	森田(東芝小向)	柳下(川崎弓道会)		
3位	川崎弓道会	谷(日電玉川)	吉沢(日電玉川)		
☆男子総合1位	団体 川崎弓道会(入山・柳下・河井)・個人 吉田(NKK)				
☆女子総合1位	個人 吉沢(日電玉川)				



◎少林寺拳法 10月22日

☆一般有段者の部【()内は支部名】

1位 坂梨匡哉	2位 加賀 勉	3位 松沢 浩
野村時織	山岸光代	木村浩之
(高津)	(高津)	(幸)

☆一般級拳士の部

1位 西 晴雄	2位 福田 誠	3位 荒川徳雄
細井政人	望月信男	堀川雅史
(鷺沼)	(生田)	(住吉高)

☆中学生の部

1位 高瀬誠司	2位 安田祐治郎	3位 安田次郎
原 寿徳	秋庭吐夢	石渡健治
(鷺沼)	(生田)	(鷺沼)

☆少年初段～3級の部

1位 尾野健一	2位 石井満	3位 北浦伸直
海川 渚	木村常昭	末木則充
(百合ヶ丘)	(川崎幸)	(川崎幸)

☆少年4級～6級の部

1位 大河原吉剛	2位 西山真貴	3位 芦沢和人
藤川裕一郎	米山亜希	近藤 豊
(川崎柿生)	(南生田)	(生田)

☆少年7級～見習の部

1位 鳥井淳史	2位 白井健一	3位 安里佳剛
東宮敦士	榎本晃洋	江藤広人
(鷺沼)	(岡上)	(生田)



1位 綾部智子	2位 庄司吏佐	3位 梶家都和子
藤原あすか	米沢百合子	鈴木真琴
(生田)	(住吉高)	(住吉高)

☆親子の部

1位 大根田正博・はるか(柿生)

☆団体一般の部	1位 鷺沼支部
☆団体少年の部	1位 鷺沼支部

◎合気道 10月22日 石川記念武道館

☆有段者ベスト3

曾根秀行 井岡知江 密田仁孝
(合気道錬成会) (麻生スポ武徳会) (杉野道場)

☆無段者ベスト3

江口武正 吉田雅彦 本山慧之助
(麻生スポ武徳会) (麻生スポ武徳会) (合気道宗月会)

☆少年の部ベスト3

岡村竜也 高倉文彦 河道俊介
(麻生スポ武徳会) (合気道錬成会) (合気道錬成会)

☆努力賞

村山由美 小山広明 ルパート・アトキンソン
(麻生スポ武徳会) (麻生S.C) (合気道錬成会)
☆合気道錬成会会長賞 大橋 正美

◎空手道 10月29日 川崎市体育館

☆組手の部団体戦

1位 森道場B 2位 心道館 3位 森道場A
市立工業B

☆有段者個人戦

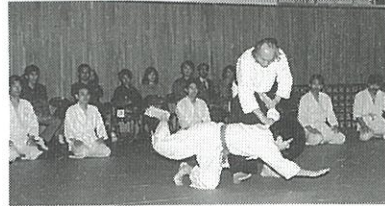
1位 松崎将光 2位 今村相哲 3位 糸賀重行
(市立工業) (森道場)
柿沼敏行
(市立工業)

☆無段者個人戦

1位 難波貴弘 2位 星野正行 3位 龍沢一幸
(市立工業) (市立工業)
黒木章一
(市立工業)

☆女子個人戦

1位 紙谷有香 2位 原田知子 3位 荻野祥子
(泊親会川崎) (玉川松壽館) (玉川松壽館)
関本幸子
(幸武館)



☆型の部女子個人戦

1位 太田弓江 2位 原田知子 3位 荻野祥子
(正道会) (玉川松壽館) (玉川松壽館)

☆有段者個人戦

1位 加藤 功 2位 須賀正一 3位 諸墨清永
(保田道場) (飯田道場) (心道館)

☆無段者個人戦

1位 吉岡史人 2位 深町重夫 3位 岩田 敏
(正道会) (幸武館) (森道場)

☆少年少女団体戦

1位 正道会A 2位 幸武館A 3位 森道場B・D

◎剣道 11月5日 松下体育館

☆男子3級の部

1位 廣木 睡 2位 山本貴之 3位 栗田法正
八木 剛

☆男子2級の部

1位 浅原宏明 2位 関口央史 3位 涌井隆行
増田博司

☆男子1級の部

1位 茂木健太郎 2位 与儀千晃 3位 金屋琢磨
山口信太郎



☆男子初段の部

1位 岩見 務 2位 田中克樹 3位 小池隆央
中西勝利

☆男子2～4段の部

1位 田中 浩 2位 矢部正浩 3位 関 拓也
卜部武徳

☆女子3級の部

1位 松本涼子 2位 鷹箸里沙 3位 沼田由紀子
福岡麻美

☆女子2級の部

1位 塘地尚子 2位 若島美穂 3位 山本好美
菅原くみ子

☆女子1級の部

1位 渡辺晴子 2位 山内美和子 3位 鷹箸路代
佐々木由美子

☆女子初段の部

1位 田辺恵美 2位 高橋朋代 3位 藤井みほ
渡辺和江

☆女子2～5段の部

1位 塘地ま代 2位 茂木さおり 3位 井越弓子
田辺静江

◎ バドミントン 12月3日 市体育館

- ☆男子A級 優勝 青木(富士通)
準優勝 柏木(市エクラブ)
3位 青柳(住吉シャトルズ)
安藤(翼成会)
- ☆男子B級 優勝 安藤(TONEN)
準優勝 宮本(個人)
3位 柳谷(東芝テスコ)
西田(親羽会)
- ☆男子 35才以上 優勝 内谷(東芝浜川崎)
準優勝 渡辺(昭和電工)
3位 斉藤(昭和電工)
- ☆女子 優勝 望月(個人)
準優勝 田中(ハネハネサークル)
3位 国頭(親羽会)

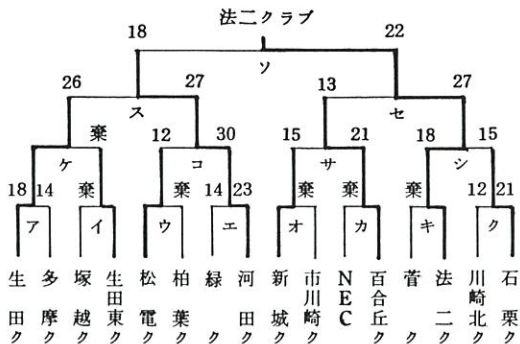


※バドミントンを一度でも経験した方ならご存じだろう。運動量も相当あり奥の深いスポーツだ。残念でならないことは、大会参加者が年々減少していることだ。
団体・個人を問わず多数の参加を!!

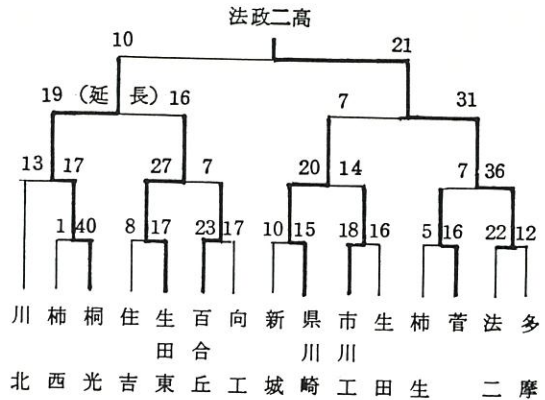
◎ ハンドボール

- ☆中学の部 11月3・5・12・23日
市立西中原中学校グランド
男子の部 女子の部
優勝 向丘中 優勝 西中原中
準優勝 塚越中 準優勝 有馬中
第3位 有馬中 第3位 向丘中
- ☆高校の部 8月28・29・30日
県立菅高・県立川崎北高グランド
- ☆社会人の部 9月23・24日 10月1日
県立生田高・県立川崎北高グランド

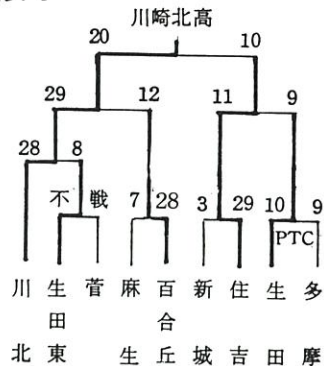
男子の部



高校男子



高校女子



日本赤十字社救急法 正規講習会のお知らせ

下記の日程で救急法の正規講習会が開催されることになりました。

この機会にぜひ正しい救急法の知識を習得して万一の際に役立てていただきたいと思います。

期 日：平成2年3月24日（土）から
4月1日（日）までの7日間
但し26日と30日は除く。

時 間：土曜日 午後2時より午後9時まで
日曜日 午前9時より午後5時まで
平 日 午後6時30分より9時まで

会 場：A 川崎市立体育館
B 川崎市立中原市民館

A・B2会場で同時開催
但し3/31・4/1はA・B合流して
川崎市立青少年の家で合宿

定 員：両会場とも30名限り

費 用：8,000円

（教本・教材費・宿泊料・保険料等の実費徴収）

※ 詳しくは市政だより2月号に掲載されます。

川崎市民マラソン

第4回川崎市民マラソン大会は諸般の事情により下記のとおり変更になりました。

大会期日 平成2年3月4日（日）

会 場 等々力陸上競技場
多摩沿線道路



賛助会費納入のお願い

財務委員長 古 谷 保

去年は、昭和から平成へと激動の1年でした。その平成元年度もあとわずかとなり、2年度を迎えようとしています。

元年度初めの賛助会員の目標額は200万円でしたが、皆様方のご協力により昨年12月の段階で160万円のご支援をいただきました。今後、当協会の法人化に向けて皆様方の更なるご支援、ご厚情を賜わりたく、よろしくお願い申し上げます。

賛助会費 個人 2,000円（1口）
団体 10,000円（1口）

◆ 編集後記

- 90年代の幕明けだ。「新しい酒は新しい革袋に」の例えのように、広報委員のタスキもリレーしていきたい。（皆川）
- わが競技（バドミントン）の写真が表紙を飾ることができたのは嬉しいことだ。広報紙の一助になれてよかった。（中山）
- 私は気付きました。現代社会はストレスのたまりやすい場であることを。また、その解消には体を動かすことが最適であることを。（小坂）
- 体協法人化の資金調達にあたっては、各種目団体は自己利益のうんぬんを超えて、体協全体の立場で考えなければならない、ということはワカッチャいるけど、ハテちょっと大変なこと。（左澤）
- 本号の編集を終えてやっとお役御免。新しい年度に向けてフレッシュな広報委員を求む。（谷口）
- 子供から老人に至るまで親しみ易い「スポーツ川崎」に育てるよう努力しております。（菊地）

発行編集 平成2年1月31日（24号）
川崎市体育協会・同広報委員会
〒210 川崎市川崎区宮本町6番地
（川崎市教育委員会体育振興課内）
電話（044）200-3312

印刷 秋田印刷有限会社 766-5650